5月・6月の管理ポイント

平成２４年４月25日
株式会社トモグリーン・ケミカル
ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/
第１１７号

５月、６月は梅雨から夏に向けての準備として、グリーンの根を伸ばしておく時期です。３月は低温が続き、芝の生育にも出遅れ感がある中、土壌の透水性、通気性を高めて、育ちやすい環境を整えていきましょう。

レボ（REVO）

５月の生育期、６月の排水対策に…

５月は芝生の根をしっかり伸ばす大切な時期です!!
レボにより表層を乾き気味、土壌中は気相をしっかりと確保した状態にキープし、芝生の発根を促しましょう。
土壌中を乾燥気味にして、根に軽いストレスを与えたほうが根が下方まで伸びていきます。
散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に充分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなります。
６月は、梅雨のため土壌が飽和状態になります。レボ処理で余分な水を排水させましょう。
使用量：レボ 2ml/㎡　散布水量：200ml～1L/㎡　散布回数：1ヶ月に1回

光合成細菌、サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には…

梅雨前の更新作業時に光合成細菌とサッチ・リムーバーを組み合わせることによって、サッチを効率よく分解し、通気性の良いグリーンをつくりましょう。
光合成細菌　使用量：1～2cc　1ℓ/㎡散布　月1～2回
サッチ・リムーバー　使用量：1～2ｇ/㎡　0.5ℓ/㎡散布　使用回数：月1～2回　(光合成細菌の取り扱いは研究会制です)

コ・エンザ

梅雨時期のストレスのかかった芝生には…

梅雨時期は日照不足のため植物内の活性が低下し、芝生が軟弱になります。
コ・エンザ処理により、植物内の酵素反応を潤滑にし、弱った芝生の回復に努めましょう。
使用量：ベント1～2ｇ/㎡　1ℓ/㎡散布　　コウライ3～4ｇ/㎡　1ℓ/㎡散布

タフスティンガーFL

害虫発生にあわせて…　新商品

GW以降のグリーンには、タマナヤガ幼虫、シバツトガ幼虫の連続発生が予想されます。また、この時期はコガネムシ幼虫も蛹化前で、活発に動いている時ですから、ネオニコ(イミダクロプリド)＋ジアミド(フルベンジアミド)系の新規長期残効型殺虫剤タフスティンガーフロアブルを使用しましょう。両成分とも耐雨性に優れ残効性が長いので、安心してご使用していただけます。
使用量：タフスティンガーFL　0.1ml/㎡　200ml/㎡散布

グリーンメカ、マリンパワー

日照不足を補うために、芝生や有用菌のエサとして…

梅雨は日照不足にともない、芝生の光合成が低下していきます(糖類生成量減少)。また過湿土壌からくる酸素不足により、根の活性も落ちてきます。黒糖、各種ミネラルの豊富なグリーンメカで不足しがちな糖類を補ってあげましょう。
光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いドブ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。
使用量：グリーンメカ 5～10ml/㎡　1ℓ/㎡以上　　マリンパワー 2～4ml/㎡　1ℓ/㎡以上

マメ知識

株式会社トモグリーン・ケミカル

過湿と芝草の呼吸の関係

芝が湿害を起こす原因の一つとしては、土壌中の気相に長雨や過散水による土壌水分が滞水し、植物の根が呼吸するために必要な酸素が欠乏することによって発生します。
今回は、土壌が過湿状態の時の根の呼吸について紹介します。

適度な土壌水分の状態 → 長雨、過散水etc → 過剰な土壌水分の状態

根が酸素呼吸している

↓

呼吸により沢山エネルギーが放出され、その働きにより約40個の※ATPが合成される。

グルコース(糖)＋酸素→686kcal＋40ATP

根が無呼吸

↓

無呼吸ではわずかしかエネルギーが放出されないので、2個のATPしか合成できない。

グルコース(糖)→40kcal＋2ATP

※ATP(アデノシン三リン酸)：アデニン(塩基)とリボース(糖)とリン酸が結合した化合物で、生物(植物)が必要とするエネルギーが保存され、必要ならば加水分解され利用される。生物体内の存在量や物質代謝における重要性から「**生体のエネルギー通貨**」とされている。　「ウィキペディアより参照」

無呼吸時は、糖のエネルギー効率が悪すぎます!!

根が呼吸していない時は、呼吸時のわずか約6%(40kcal)しかエネルギーを放出していません。この状態で、呼吸時並みのエネルギーを放出させ、植物の活性(根の養分、水分吸収)を促すには、約17倍のグルコース(糖)が必要になります(あくまで理論値ですが)。現実に、茎葉からこれだけ多量のグルコースを吸収させることはできないので、過湿状態では慢性的な糖不足におちいってしまいます。このように梅雨時期は、土壌が過湿状態になってしまうので、エネルギーが不足して生育が衰退してしまうのです。

参考　植物生理学入門